

## <シドモア桜>とは



1884年（明治17年）前後に来日したエリザ・R・シドモア（当時28歳）はアメリカ人のジャーナリスト・紀行作家として、ヨーロッパや日本をはじめとするアジア諸国を訪問・取材で活躍した女性です。日本滞在中は広く各地を人力車で巡り、人々の生活や日本の風景・風俗を観察。その結果を欧米社会に、西洋人の目から見た日本の姿や文化を紹介しました。中でもシドモアが目にしたのが日本のお花見風景、特に桜と東京隅田川沿い向島の桜並木に魅了されました。その様子はシドモアの著書 <Jinrikisha Days in Japan> 『邦訳 日本・人力車旅情』にも詳しく描かれています。

桜の美しい風景を「母国アメリカ・ワシントンにも！」と熱望したシドモアは、親交の深かった当時の米国大統領タフト夫人に桜の移植計画を提案し同意が得られたことをきっかけに、後に日米友好・親善のシンボルとなる桜の移植計画が始まったのです。幾つかの紆余曲折を経てついに1912年に日本から贈られた3000本の桜の苗木がワシントンに到着し、ポトマック河畔一帯に植えられました。

1991年にワシントンから日本に里帰りした桜が横浜山手外国人墓地のシドモア家墓前に植えられ、今では大きく成長しシドモア女史も見守る中、毎春満開の花で皆を楽しませています。この「里帰り桜の樹」から穂木を採取し、接ぎ木によって作った苗を育てて、それを横浜周辺や全国各地に移植し、大きくなった樹を<シドモア桜>と呼ぶようになりました。

シドモア桜の会 横浜

2021年3月12日